

心の保育園

The title '心の保育園' (Heart's Nursery) is written in large, stylized Japanese characters with a wood-grain texture, set against a background of five overlapping orange circles. The text is surrounded by various nature illustrations: a brown stag beetle at the top left, a green beetle at the top center, a blue butterfly at the top right, a yellow and black bee at the bottom right, and several green and yellow leaves scattered throughout.

石川県環境部自然保護課

平成20年度 もりの保育園プログラム

里山で楽しく遊ぼう！

年間スケジュール、里山あそびの提案	・・・・・・・・・・	1
-------------------	------------	---

実施プログラムの紹介

第1回 もりの保育園「キラキラのもり」	・・・・・・・・・・	3
第2回 もりの保育園「ブンブンのもり」	・・・・・・・・・・	7
第3回 もりの保育園「コロコロのもり」	・・・・・・・・・・	11
第4回 もりの保育園「ドキドキのもり」	・・・・・・・・・・	15
第5回 もりの保育園「ルンルンのもり」	・・・・・・・・・・	19

プログラムを実施してみよう！

STEP1～STEP6	・・・・・・・・・・	23
-------------	------------	----

参加者アンケート結果

第2回 もりの保育園 親子公開保育	・・・・・・・・・・	25
第3回 もりの保育園 プログラム体験会	・・・・・・・・・・	26

スタッフ紹介

木谷一人（きーさん）《石川県ネイチャーゲーム協会事務局長》
森の中で遊ぶのが大好きなおじさんです。
みんなと一緒に森のすてきや森の不思議を探したいと思います。



木谷あけみ（あっちゃん）《いしかわ自然学校インストラクター》
はじめてネイチャーゲームをしたとき、早朝、1枚の葉っぱが地面に落ちる音を聞きました。静かな静かな感動でした。森のいろいろな出会いを楽しみにしているあっちゃんです。

藤田智子（ふっちゃん）《いしかわ自然学校インストラクター》
森のひとつき、一緒に楽しんでみませんか。
静かに心にひびくもの、大切にしていきたいなあと思っています。



● 「いしかわ自然学校」とは

石川県をはじめとした行政、NPO、民間事業者などが広くネットワークを組み「自然体験プログラム」を提供するしくみで、全国で先駆けて石川県が実施した独創的な試みです。「自然の神秘さや不思議さを感じると、自然とふれあいながら自然と人のさまざまな関係に気づき、より良い関係づくりについて楽しく学ぶこと」それがいしかわ自然学校です。

● 「いしかわ自然学校インストラクター」とは

いしかわ自然学校では、自然環境に関する正しく深い知識を備え、自然体験プログラムの企画から実施運営評価報告までを体系的に行うことのできる人を養成し、修了された方をいしかわ自然学校インストラクターとして登録しています。

～ 問合せ先 ～

いしかわ自然学校事務局（社団法人いしかわ環境パートナーシップ県民会議）
TEL: 076 - 232 - 3991 メールアドレス: staff@i-shizengakko.net
いしかわ自然学校URL: <http://www.pref.ishikawa.jp/shizengakko/>



プログラム実施保育園の紹介



千坂保育園 CHISAKA-HOIKUEN

当保育園は、遊具や木、草花などが整備された公園がたくさんある住宅地に位置しています。自然の中で思い切り遊べる場や機会が少ない中でも、子育てにやさしい地域社会を作るために、人や自然とのふれあいやつながりを大切に、みんなで一緒に子育てができる環境作りに心がけています。自らが実際に感じ、発見し、感動体験することが子どもの成長には欠かせないものと言えます。

今回、縁あって年間を通して「もりの保育園」プロジェクトに参加することになり、子ども達が大自然の中に身を置き、自然のおもしろさ、楽しさ、不思議さに気づき、驚きや新たな発見、感動することで心豊かな感性と丈夫な体を育てほしいと思っています。

〒920-0004 石川県金沢市疋田町八302 TEL: 076-258-1321
URL: <http://www.kosodate-web.com/chisaka/>



里山で楽しく遊ぼう！

美しい早春の花々、朝のもりに響く小鳥のコーラス、躍動する虫たちの生命の輝き・・・
里山は生命のゆりかごです。

かつて、私たちは野山を駆け回って季節の変化を知り、雑木林では命の尊さを学びました。
自然は様々な情報を与えてくれる知恵の宝庫です。

そんな自然とかけ離れてしまった生活は、私たちから生命の尊さや自然界の不思議を知る機会を奪ってしまいました。

里山は子どもはもちろん、大人にとっても楽しい自然の遊び場です。木登り、クラフト、森林浴、アウトドアクッキング等さまざまな遊びが楽しめます。

里山の楽しさを体験してもらうため、県では夕日寺健民自然園を舞台にモデルプログラムを企画・実施しました。

もりの保育園プログラム

	春編	夏編	秋編
タイトル	キラキラのもり	ブンブンのもり	コロコロのもり
ねらい	森の恵み	森の昆虫	森の木の実
	森からの恵みや太陽の恵みに気づく	虫の生態や命に気づく	木の実の種類と命のつながりに気づく

里山あそびの提案

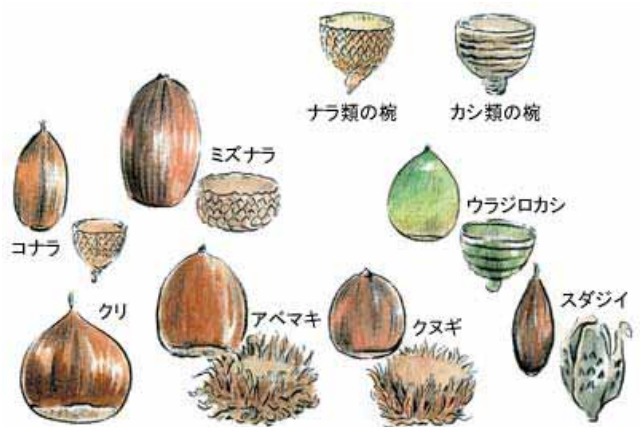
	春	夏	秋
四季の遊びの提案	山菜採り お花摘み 芽吹きウォッチング チョウチョさがし タケノコ堀 タンポポの綿毛飛ばし ツクシさがし 10円玉ミガキ 花の蜜吸い	カタツムリ探し ザリガニ釣り トンボさがし ホタルさがし キイチゴさがし カブトムシさがし クワガタさがし 笹舟あそび セミ取り セミの抜け殻さがし 夜の探検 ササユリさがし	バッタさがし カマキリさがし ドングリ遊び 落ち葉キャッチ アケビさがし クリさがし 落ち葉に埋まろう マツボックリさがし 紅葉狩り お月見 秋の七草



秋編	冬編
ドキドキのもり	ルンルンのもり
森の動物	森のメルヘン
森の動物について気づく	森の妖精など夢のあるお話で森を好きになる



冬	一年通しての遊び
雪だるま作り	バードウォッチング
雪合戦	色さがし
そり遊び	風の音さがし
カマクラ作り	音さがし
足跡さがし	草笛
フンさがし	秘密基地作り
カモシカをさがせ	森林浴(ハイキング)
カンジキ歩き	竹細工
冬芽さがし	葉っぱのこすりだし
スノーウォッチング	木の鼓動
七草かゆ	私の木
	木を作るう
	草花お絵かき
	葉っぱのパズル
	匂いさがし
	森の音楽会
	鏡あそび
	お茶体験
	葉っぱ探し



第1回もりの保育園「キラキラのもり」

キーワード: もりの保育園プログラムへの導入、創造力

タイトル	キラキラのもり
ねらい	森からの恵みや太陽の恵みに気づく 自分の好きなもの、ステキだと思うものを探す
内容	園地にあるものを使ってお気に入りの詰めたお弁当を作る
コンセプト	森の恵みっていっぱいあるよね
準備する物	箱6個 フードパック 輪ゴム、タックシール ペン、ロープ、笛、救急セット バンダナ(子どもたち持参)

日時	2008年5月16日 10:00~12:00
場所	夕日寺健民自然園 里山ふるさと館 そば畑跡の野原
対象	千坂保育園 5才児クラス(38名)

時間	内容	指導者の援助	使用する物	指導のポイント
事前準備 9:00		安全確認 プログラム確認 行って欲しくない区域にはロープを張る	ロープ	
開始	園児到着・トイレ確認	スタッフ自己紹介は愛称で。		
10:20	プログラム1 アイスブレイク ねらい: 気持ちの解放・周りを感じる 木の周りで手をつないで輪になって、 テーマソングを歌う。	広場に誘導		子どもたちの気持ちを高めるため、テーマソングをプログラムの前後に必ず歌うことにした。
10:25	プログラム2 カメラゲーム ねらい: 感覚を研ぎ澄ます 目をつぶって一瞬だけ目を開いて景色を見る。			
10:30	プログラム3 同じものを探そう1 ねらい: もりにあるものをよく見る スタッフが事前に周辺にある自然物を用意する。今回は4種の草花。子どもたちに見せて同じものを探してくる。	3グループに分け、それぞれに指導者が1人つく。	草花の入った箱(各グループ1つ) バンダナ(各自)	
10:50	プログラム4 同じものを探そう2 ねらい: 自分のお気に入りを探す 周辺からお気に入りの草花をさがしてもらい、2つのグループに子どもたちを分け、お互いに探し合う。		箱(各グループ2つ)	
11:20	プログラム5 もりのお弁当 ねらい: もりにあるもので創作する もりにあるものを集めて、フードパックにお弁当のように盛りつけ、それぞれお弁当に名前を付ける。	事前にスタッフが作ったものを見本とする	フードパック(人数分) 輪ゴム(人数分) タックシール(人数分) マジックペン(各グループ1本)	
11:50	プログラム6 ふりかえり(カメラゲーム) ねらい: 一瞬のもりの風景を感じ取る 目をつぶって一瞬だけ目を開いて景色を見る。			
12:00	テーマソングを歌って、終了			

第1回 もりの保育園

H20.5.16(金) 10:00~12:00

プログラム1 アイスブレイク



き～さん、あっちゃん、ふっちゃんです。
きらきらの森へようこそ！



きらきらの森で輪になって・・・
「この～木なんの木、木になる木～」

プログラム2 カメラゲーム

感覚を研ぎ澄まそう

目を閉じて、パッと目を開いて
またすぐに目を閉じてみよう。

スタッフ 「空は何色に見えた？」
子どもたち 「青！」
スタッフ 「それじゃ耳を澄ましたら・・・何が聞こえる？」
子どもたち 「鳥の声！」 「葉っぱがさがさする音！」



プログラム3 同じものを探そう

まわりにどんなものがあるかを知ろう！

箱の中に事前に用意した4つの植物。
同じ植物を探してみよう。



スタッフ 「どんな手触りかも覚えてね」



「それじゃ、摘みに行きましょう。
葉っぱを採るときは、“ちょっとだけくださいな”
採ったときは“ありがとう”と声をかけてね。」



「バンダナで袋を作りましょうね。
こうやってはじを持ってね。」



草原を歩き回る子どもたち 「どれかなあ～？」

プログラム4 お気に入りを探そう

探求心を引きだそう！



誰にも内緒で自分のお気に入りを見つけてね。見つけたら、そっと箱にしまってね。



お気に入り・・・ あったよ！



スタッフ 「それじゃあ、みんなのお気に入りを見てみましょう。これを見つけたのは誰かな？どこが気に入ったの？」



子どもたち 「触ると気持ちいい！」 「いいにおいがする！」



プログラム5 森のお弁当

想像力をふくらませよう！



スタッフ 「みんなでお弁当をつくりましょう。ふっちゃんはお寿司が好きだから“手巻き寿司弁当”をつくりました。」



子どもたち 「できたよ！」



きらきらの森の恵みを使って、思いがいっぱい詰まった美味しそうなお弁当ができました。

プログラム6 カメラゲーム 振り返ってみよう



スタッフ 「きらきらしたもの見えたかな？」
子どもたち 「見えた！」



スタッフ 「それじゃ、きらきらしたもの探してみよう。目をつぶって…
きらきらした音、聞こえるかな？」
子どもたち 「聞こえる！」 「風の音」 「小鳥の声」



さあ、今日はこれでおしまい。また、遊びましょうね。

子どもたち 「もりの先生、ありがとうございました」

今回プログラム3で見つけた草

コウゾリナ



スイバ



カラスノエンドウ



「この花“顔そり菜 カオソリナ コウゾリナ”って言うようになってんよ」 「へえ～(先生&こどもたち)」
好奇心をくすぐるような話をしてあげると、あとあとまで名前を忘れません。

プログラムを終えて……

指導者の声(ふっちゃん)

素晴らしいお天気のもとお花畑のような野原でみんなと遊ぶ、という今の時代にはなかなか得難い活動となりました。自然体験の活動にかかわる大人が子どもたちに贈りたいと思っているのはきっと単純にこんなことなんだろうと素直に思いました。今日のことは子どもたちに私たちにも、タイトルの通りキラキラとした思い出となって残ることと思います。

保育士の声・子どもたちの反応

- ・普段、草花がいっぱいの自然の中で遊ぶ体験がないので子どもの感動が伝わってきた。
- ・いつも遊んでいる公園とはちがひ、冒険心いっぱい子どもたちは生き生きして、輝いた目で自然の中に溶け込んでいた。今後、自然にふれて遊ぶ中でどう変わっていくか楽しみでもある。
- ・お弁当作りではそれぞれが工夫し、楽しみながら自然とふれあう遊びに関心が持てた。
- ・子どもたちだけでなく自分も夢中になり里山の美しさ、自然のすばらしさを再確認できた。
- ・同じ場所で長時間のプログラムがこなせず、最後まで集中力が持たない子がいた。
- ・散歩中や戸外に出たとき「風の音が聞こえる」と子どもたち同士つぶやいたり「これキラキラの森にあったね」と同じ草花を見つけたたり、今まで気付かなかったこと、感じなかったことに対する興味や関心が持てるようになった。自然を肌で感じる喜びが伝わってくる。
- ・キラキラで作ったお弁当をお散歩先でも作り、遊びに発展が見られるようになった。
- ・子どもに絵を描かせると必ず、青い空、キラキラ光る太陽、風、雲を描くようになった。

第2回もりの保育園「ブンブンのもり」

キーワード:生態系、いきものつながり

タイトル	ブンブンのもり
ねらい	虫たちの生きる知恵を知る 親子で自然を観察する
内容	親子で事前に隠しておいた昆虫フィギュアを探す。ゲームを通じて生態系について学ぶ。
コンセプト	虫たちはかくれんぼが好きだよ
準備する物	昆虫フィギュア、おもちゃ・ぬいぐるみ等、ロープ、付箋、メモ紙(ダンボール製)、えんぴつ、わりばしチップ、ザリガニ帽子、本、救急セット

日時	2008年7月5日 10:30~12:00
場所	夕日寺健民自然園 里山ふれあいセンター 周辺
対象	千坂保育園 5才時クラス(38名)とその保護者、兄弟(小学生) 計100名

時間	内容	指導者の援助	使用する物	指導のポイント
事前準備 9:00		安全確認 プログラム確認 フィギュア隠し	昆虫フィギュア おもちゃ等	
開始	園児到着・トイレ確認	行って欲しくない区域にはロープを張る	ロープ	
	10:20 プログラム1 アイスブレイク ねらい:気持ちの解放・プログラムへの導入 木の下で、テーマソングを歌う。	広場に誘導。 スタッフ自己紹介は愛称で。		子どもたちの気持ちを高めるため、テーマソングをプログラムの前に必ず歌う。
	10:30 プログラム2 かくれんぼ ねらい:虫や動物などの擬態や生態について気づく スタッフが用意した、大型絵本(昆虫のかくれんぼ)を広げ、子どもたちに虫探しをしてもらう。	3グループに分け、それぞれに指導者が1人つく。	本(各グループ1冊)	
	3つのグループに分かれ、子どもと保護者(保育者)のペアになり、隠れた昆虫フィギュアを探す。	フィギュアを見つけてもぜったい取らないことを約束する。 園児と保護者(保育者)にそれぞれに役割を持たせる。	昆虫フィギュア おもちゃ等 目立つ色の付箋 メモ紙(ダンボール製) えんぴつ(親子に1本)	小学生のみの別グループをつくり、「もりにはないもの」をテーマに事前に隠したぬいぐるみやおもちゃを探した。
11:20 プログラム3 ザリガニゲーム ねらい:疑似体験を通して生きもののにぎやりに気づく 子供たちがヤゴ役、小学生が数名ザリガニ役になり、ヤゴが捕まらないようにえさを取りに行く。	ヤゴ役、ザリガニ役の子どもたちの数を増減させながら、数回ゲームをする。	ロープ わりばしチップ ザリガニ帽子	ザリガニが増えるとヤゴが減り、ザリガニが減るとヤゴが増えるのでヤゴのエサが足りなくなるということを遊びの中で体験し、生きもののにぎやりに親子ともに気づいてもらった。	
12:00	終了			

注意点: 森の中にはこの時期やぶ蚊がいる可能性があるため、長袖長ズボンや虫除けスプレーなどで各自防除してもらう。

第2回 もりの保育園

H20.7.5(土) 10:00~12:00

プログラム1 アイスブレイク

虫になってみる

*午後から、保育園行事でザリガニ採りを楽しむので、午前中の10時から12時まで、「ブンブンのもり」プログラムを行いました。



スタッフ

「それじゃ、それぞれのポーズになって、じゃんけんをする、名付けて「ブンブンじゃんけん」をやるよ。きーさんたちと同じ格好したら、負けやよ〜」

「みなさ〜ん、こんにちは！」

「ブンブンブンブンじゃ〜んけん、
ブンブンブンブンじゃ〜んけん ダンゴむし」

子どもたち

「勝った〜！」 「負けた〜」



スタッフ

「今日はブンブンの森へようこそ」
今日は、午後からザリガニ釣りを楽しむんだね。
この森にはザリガニの他にも沢山の虫がいるんだけど、
どんな虫を知っている？」

子どもたち

「ちょう」「セミ」「トンボ」「クワガタ」「だんごむし」

プログラム2 かくれんぼ

隠れる虫たち



スタッフ

「この森の中には沢山の虫が隠れています。虫を探す前に、
本の中に隠れている虫を見つけてね。ここに葉っぱが
いっぱいあるけれど、一つだけ虫がいるよ。さあ、どれかな？」

子どもたち「これ！」



スタッフ

「次は、この森に、昆虫とか生き物のおもちゃを隠しました。
親子で組になってくれた昆虫を探してみましょう。
何がみつかったか、保護者が記録して下さいね。」



「その前に約束が3つあるよ。
1つ目は「お友達が、「あ～あ、せっかく見つけようとしていたのに」と残念がらないように、こっそり探してね。2つ目は取らないでね。3つ目は親子で協力して探して下さいね。」



声を潜め、隠れた昆虫を探す子どもと保護者
子どもたち「ねえ、ママここにおったよ！」



スタッフ「みんな何個みつかったかな？」
子どもたち「11コ」



スタッフ「すごいね。でも、ほんとはもっと隠してあるんだよ。
見つけた虫に、この赤いシールを貼って、もう一度、見つけられたか、見つけられなかったか確認してね。」

それぞれに何かが隠れているよ。わかるかな？



プログラム3 ザリガニゲーム

生態系って？

ヤゴは保育園のみんな、ザリガニは小学生。
丸い池にえさにみたてた棒をおいてあるから、1回につき1本、
3往復して3本取ってきてね。ザリガニにタッチされたら
食べられたことになるから、食べられないようにね。



スタッフ 「次のプログラムは小学生チームがザリガニになって、
餌場に餌を取りに行くヤゴを捕まえるんだ。
トンボの子どもは何か知っている？」

子どもたち 「ヤゴ！」

スタッフ 「ヤゴを食べにくるやつ知っているか？」

子どもたち 「ザリガニ！」

スタッフ 「そう、ザリガニやね。これからみんなにヤゴになってもらい
ザリガニと戦うゲームをやってもらいます。」



芝生の上を駆け回る子どもたち・・・
でした。



ザリガニゲームを楽しんだあと、保育園から持参した、手作り
カレーを楽しみ、午後からザリガニ釣りをしました。

こんな所に隠れていたよ。分かったかな？

プログラムを終えて・・・



指導者の声(きーさん)

子どもたちと保護者が一緒に、初夏の森の木陰のすずしさや森の生物に気付いてくれたと思います。また、親子で体験することで、気づきを分かち合うことも出来たのではないのでしょうか。生態系についての気づきもあり、午後からのザリガニ釣りにもつながる活動になりました。

保育士の声・子どもたちの反応

- ・ブンブンじゃんけんが楽しかった。
- ・ヤゴとザリガニゲームでえさがとれなくてくやしかった。
- ・森の中にいるんな虫がいて楽しかった。
- ・自然を織り交ぜた数々のゲームや遊びがためになった。
- ・最初は緊張気味の子も多かったが森の中に入り、自然物に触れながらゲームを進めていくうちに
会話が弾み楽しんでいる姿が見られた。

保護者の声

- ・大きな木の日陰の涼しさや里山の風のおいなどく々に自分の子ども時代のことを思い出され、
今は本当に身近に自然を感じる事が少なくなったなぁと改めて思った。
- ・森の中は涼しくて気持ちよく、もっとこういう自然の中で遊ばせてやりたいと思った。
- ・自然の中に身を置き気分がリフレッシュできました。

第3回もりの保育園「コロコロのもり」

キーワード:生態系、いきものつながり

タイトル	コロコロのもり
ねらい	森の木の実と動物の関係に気づく 植物の生きる知恵に気づく
内容	森の中で木の実を探して拾い、生きものつながりについて知った後拾った木の実を土に還す。
コンセプト	秋の森にはステキな実がいっぱい!
準備する物	仕切り用ロープ、ゲーム用ロープ、ドングリ3セット、箱3、ジャバラ絵、集合笛、ビンゴカード3セット、救急セット

日時	2008年10月15日 10:00~12:00	
場所	夕日寺健民自然園 里山ふれあいセンター 周辺	
対象	千坂保育園 5才児クラス(38名)と保育士さん(4名)	計42名

時間	内容	指導者の援助	使用する物	指導のポイント
事前準備 9:30		安全確認 行って欲しくない区域にはロープを張る。	ロープ	
開始	園児到着・トイレ確認			
10:00	プログラム1 アイスブレイク ねらい:気持ちの解放・プログラムへの導入	広場に誘導。 スタッフ自己紹介は愛称で。		子どもたちの気持ちを高めるため、テーマソングをプログラムの前に必ず歌う。
	芝生広場で輪になって、テーマソングを歌う。			
	どんぐりじゃんけん			
10:15	プログラム2 くじびきビンゴ ねらい:秋の森にある木の実を様々な感覚で探し観察力を高める。自然からの発想を得る。 バラバラになったカードを一枚ずつひいて書かれたものを探し、見つけたらバッグに入れる。次のカードを引いてまた探す。見つからなかったらカードをかえてよい。	全員で説明を聞く。 その後3グループに分かれる。 2人ペアで探す。 危険個所には大人が立つ。危険物(ハチ・ウルシ等)に注意する。	ビンゴカード(3セット) 探検バッグ	
10:45	プログラム3 ごちそうはどこだ(寸劇) ねらい:疑似体験を通して生きものつながりに気づく グループのケヤキの周りにドングリを隠し、お互いのグループの隠したドングリを探しに行く。集合の後、自分のグループのドングリを探しに行く。	全員で説明を聞く。 その後3グループに分かれる。	3色どんぐり 3色箱	
11:10	プログラム4 ドングリの成長絵話 ねらい:どんぐりの成長を目と耳で確認する。その後にするどんぐりを埋める作業の意味を知る。 グループごとにくじびきビンゴをしたあたりで、ドングリ・木の実を土に埋める。	絵話の後、バッグを持ってもりの中へ誘導。埋めるのは手で。	ジャバラ絵	
11:35	プログラム5 ふりかえり(カメラゲーム) ねらい:一瞬のもりの風景を感じ取る。 目をつぶって一瞬だけ目を開いて景色を見る。			
11:45	テーマソングを歌って、終了			

注意点: 森の中にはこの時期ハチがいる可能性があるため、長袖長ズボンや虫除けスプレーなどで各自防除してもらう。

プログラム1 アイスブレイク

スタッフ

「コロコロの森へようこそ！」
「今日は森の中に入って、木の実や葉っぱで遊びましょう。
それじゃ、みんなで「どんぐりじゃんけん」をやるよ。」



「どんぐりころころ どんぶりこ〜」



「コロコロの森へようこそ！」

「みなさん、こんにちは！」
「どんぐりコロコロの歌にあわせたじゃんけんをします。
みんなでどんぐりコロコロの歌をうたうよ
きーさんと同じポーズにならないようにね。」

プログラム2 くじびきビンゴ 木の実や葉っぱを見つけよう

スタッフ

「この森の中には様々な木の実や葉っぱが落ちています。
袋からカードを1枚引いて、赤い実やすべすべの実など
書いてあるものを探しましょう。」



「すべすべの実どこにあるかな〜？」
「あっ、見つけた！」



スタッフ

「見つけた木の実を持ってきた探検バッグに入れて下さいね。
見つからなかったら、次のカードを引いてまた探してみましょう。」



プログラム3 寸劇 ごちそうはどこだ

ドングリの木「こまった、こまった…」
 リ ス 「こまった！こまった！」
 ふくろう 「何をそんなに困っているのじゃ？」
 リ ス 「冬になると食べ物が無くなってしまって、
 お腹がペコペコなんだ。困ったなあ。」
 ドングリの木「リスさんがドングリを全部食べてしまったんだ。
 子孫を残せなくなっちゃうよ。困ったなあ」
 ふくろう 「それなら、いい方法がある。
 リスさんは秋の間にドングリを土の中に蓄えておいて
 冬にはそれを少しずつ食べればよいのじゃ。
 でも全部食べてはいかんぞ。ドングリさんが子孫を
 残せるように、少しだけ残しておいてあげるのじゃよ。」



リ ス 「そんないい方法があったんだね！！」
 ドングリの木「ふくろうさん、ありがとう！！」



「どこにあるかなあ。」

スタッフ

「これからみんなでリスさんになって、ドングリを木の周りに隠しに行きましょう。
 隠し終わったら他のグループが隠したドングリを見つけてね。
 全部見つけれられるかな？」



「あっ、あったよ！」

プログラム4 ドングリの成長絵話 植物の成長過程を知ろう

さっきみんなが拾ったドングリ。
 土の上に落ちたドングリは、
 春になると小さな芽を出します。

太陽や雨に育てられ、ぐんぐん大きくなった
 ドングリの苗は、長い年月をかけて
 ここにある大きな木に成長するのです。

そしてまた、毎年秋になるとドングリをたくさん実らせ、
 そのドングリはまた大きな木となります。

このようにして森はできていくのです。



「これから、くじ引きビンゴで拾った木の実を
 元の森に返しに行きましょう。木の実たちが
 春に芽を出せるように、土の中に埋めてあげてね。」



「元気な芽が出るといいなあ」



プログラム5 カメラゲーム

振り返ってみよう

「今回は森の広場でカメラゲームをしましょう。
目をつぶって、パッと目を開いてまたすぐ目をつぶってね。」

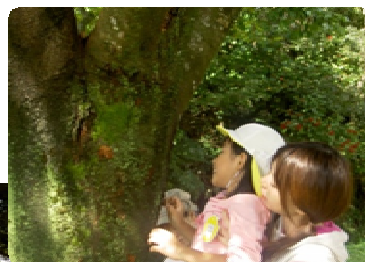


「何が見えたかな？」



「空！」「木の葉っぱ！」

さあ、今日はおしまい。
だんだん森の中で遊ぶことに慣れてきたみたいだね。
春には、みんなが埋めたドングリが芽を出したかどうか、また探しにきてね。



プログラムを終えて…

指導者の声(あっちゃん)

木の実探しからリスとドングリのお話、ドングリ隠し、ドングリを植えるという活動がうまく繋がり、子どもたちも森の仕組みや動物と森との関係が理解できたを思います。計画段階でドングリを鉢に植えるか、盛って帰って育てた方がいいのかと検討し合ったが、森に植えることによって、小さい子なりに里山のためになったと喜びを感じているいることがよくわかりました。やさしい気持ちが伝わってきます。

保育士の声・子どもたちの反応

- ・整った園地や公園がまわりには多いが、自分の園のまわりと見直し、できることから始めたい。
- ・りすになってどんぐり探しをしたりして、自然と一体になった保育でとてもすてきだと感じた。
- ・森の中で空を見上げた時の子どもの「風と葉っぱが仲良しさんだね」という言葉に、子どもの発想のすごさを改めて感じる事ができた。
- ・「ぼくの一番大事などんぐりを自然にかえてあげるんだ。」と言っていたA君。自然を通して子どもの心にふれることができました。
- ・工夫してあそびを伝えていたり、一つのあそびから子どもの声を聞いて、子ども自身が発展させていけるようにあそんでいきたいと思いました。
- ・園に帰ってからどんぐりを一人ずつ植えたが次の日も「どんぐりどうなっているかな？」と楽しみにしていた。子ども達は、落ちているどんぐりのその後を考えることもなかったので、森で起きていることの関心が向いたことが大きな収穫だったと思う。

第4回もりの保育園「ドキドキのもり」

キーワード: 森の歩き方、観察力

タイトル	ドキドキのもり
ねらい	探検隊になったつもりで森の中に入り、食べ残しや糞、巣などをみんなで探し、動物の気配を感じる
内容	森の中を探検し、昆虫や植物を観察したり、動物の気配を感じる
コンセプト	森で動物に会えるかな!
準備する物	救急セット、虫刺されの薬、飴、3色バンダナ、ペットボトルに水、探検バッグ(参加者) 服装は長袖、長ズボン。 少雨のときは雨がっぱと長ぐつ。

日時	2008年11月13日 10:00~11:30
場所	夕日寺健民自然園 里山ふれあいセンター 周辺
対象	千坂保育園 5才児クラス(38名)と保育士さん(4名) 計42名

時間	内容	指導者の援助	使用する物	指導のポイント
事前準備 9:00		飴が入ったバンダナをコースに隠す	3色バンダナ 飴(人数分)	
開始 9:45	園児到着・トイレ確認 ふれあいセンターに荷物を置く	探検バッグだけ持つ		
	10:00 プログラム1 アイスブレイク ねらい: 気持ちの解放・プログラムへの導入 芝生広場で輪になって、テーマソングを歌う。	広場に誘導。 スタッフ自己紹介は愛称で。		子どもたちの気持ちを高めるため、テーマソングをプログラムの前に必ず歌う。
	間違い探し観察			
10:10	プログラム2 森の探検 ねらい: 動物の食べ残しや糞、巣などをみんなで探す。	全員で説明を聞く。 その後3グループに分かれる。	救急セット ペットボトルに水 探検バッグ	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥の巣 ・糞 ・きのこ ・くろもじ ・キツツキの穴 ・土ぐり ・どんぐり ・どんぐりの赤ちゃん ・大葉 ・おやまぼくち 等 を見つけられるように補助してあげる。
10:10	<コース> ・芝生広場 ~ コナラの広場まで	危険物(ハチ・ウルシ)に注意		
10:40	・コナラの広場で休憩	出発する時、チームカラーを伝える		
10:50	・コナラの広場 ~ 芝生広場 チームカラーのバンダナを探しながら進む 天候によりコースを選択する			
11:25	プログラム3 ふりかえり(カメラゲーム) ねらい: 一瞬の森の風景を感じ取る。 目をつぶって一瞬だけ目を開いて景色を見る。			
11:30	テーマソングを歌って、終了			

第4回 もりの保育園

H20.11.13(木) 10:00~11:30

プログラム1 アイスブレイク

注意深く見よう

広場の芝生や周りの木々もすっかり冬支度です。

スタッフ

「今日はドキドキの森へようこそ」
「それじゃ、間違い探し観察をやるよ。最初にきーさんをよく見て覚えてね。そしたらしばらく目をつぶって…。
はい、さっきとどこが違うかな？」

子どもたち
「あっ！手がグーになった！」



プログラム2 森の探検

森の探検に出発

森の中にはさまざまな生き物がすんでいます。
食べ残しやフン、巣など、生き物たちが森の中に残していったヒントを探しに行ってみましょう。

スタッフ

「土の上や木の枝、葉っぱの裏なんかもよ〜く見てね。
何か見つけたら、みんなで観察してみよう。」



子どもたち
「これなんだろう？」「どれ？どれ？」
スタッフ
「何か見つけたみたいだね。」



子どもたち
「なに？なにが見つけたの？」
「ボクにも見せて！」

スタッフ
「これなんだかわかる？」



子どもたち
「うわぁ！すごい！」



森の中で見つけたもの

動物のフン



鳥の巣



キツツキの穴



カミキリムシ



キノコ



スタッフ

「みんなとっても上手に、いろんな生き物を見つけたり感じることができたね。森の中で見つけた昆虫や植物の名前を、図鑑で調べてみてもおもしろいよ。」



「いっぱい歩いたからつかれたぁ。」
「虫がちょっと怖かったけど、おもしろかった！」

プログラム5 カメラゲーム

振り返ってみよう

スタッフ

「今回は芝生の上に寝転がってカメラゲームをしましょう。
目をつぶって、パッと目を開いてまたすぐ目をつぶってね。
何が見えたかな？」

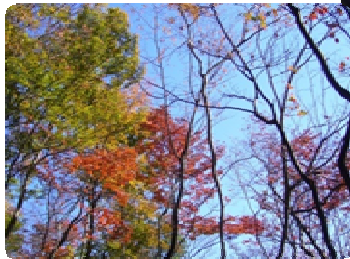
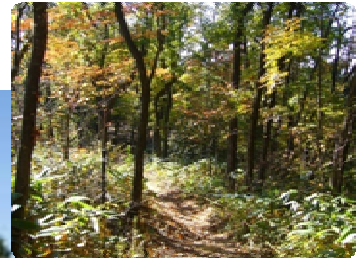


スタッフ

「それじゃ、目をつぶって今日見つけたものを思い出してみよう。
ドキドキするものたくさん見つけれられたね。」

さあ、今日はこれでおしまい。

今度はまた、他の季節の森も探検してみてね。きっと、秋とは違ったいろいろな生き物たちに出会えるよ。



プログラムを終えて・・・

指導者の声(きーさん)

街中の道と、森のでこぼこ道の違いがよ～わかったと思います。それだけでも大きな体験。プラス、最高の天候に恵まれ、森に差し込む光と風が子どもたちにたくさんの美しいものを見せてくれました。ドキドキしながら散歩した森が大好きになってくれたでしょう。最後、芝生に寝転がったとき子どもたちの方からカメラゲームをしようと言ってくれたのはうれしかったです。

保育士の声・子どもたちの反応

- ・子どもと一緒に同じ目線、同じ感覚で体験することが大切だと思った。そこからいろいろ感じるものがあった。参加できてよかった。
- ・赤い実を探すとき高いところの実を発見した。「木の实って落ちると思ったけど上のほうにくっついているげんね」と言っていた。視点を広げるといろいろなものが見えてくるものだなと子どもと一緒に気付くことができた。

第5回もりの保育園「ルンルンのもり」

キーワード:メルヘン、森を再認識

タイトル	ルンルンのもり
ねらい	ストーリー性を持って森に入り、森の静けさを楽しむ 大好きな森に対し、感謝の心を育てる
内容	絵本を読み聞かせ、メルヘンを感じながら森を散策する。
コンセプト	森には妖精がすんでるの!?
準備する物	絵本、写真絵本、虫めがね、新聞紙束、スキーウエア、長靴

日時	2009年2月12日 10:00~12:00
場所	夕日寺健民自然園 里山ふるさと館(古民家) 周辺
対象	干坂保育園 5才児クラス(38名)と保育士さん(4名) 計42名

時間	内容	指導者の援助	使用する物	指導のポイント
開始 10:00	ふるさと館(古民家)に集合 あいさつ	全員靴を脱いで中に入る		
10:05	プログラム1 アイスブレイク ねらい:気持ちの解放・プログラムへの導入 輪になって、テーマソングを歌う。 読み聞かせ:てぶくろ	読み手:ふっちゃん	絵本(てぶくろ)	子どもたちの気持ちを高めるため、テーマソングをプログラムの前に必ず歌う。
10:20	プログラム2 虫眼鏡でおもしろいもの 見つけよう ねらい:雪や、枝から落ちる水滴などを虫 めがねという道具でいつもと違う見方を 楽しむしっかり春の準備を始めている 自然に気づく	全員で説明を聞く。 その後3グループに分かれる。	スキーウエア 長靴 虫めがね(1人1本)	
10:50	プログラム3 ラポラポラを探しに行こう ねらい:ラポラポラという妖精のお話で メルヘンを感じながら森へ入るきっかけ 作りをする 森へ入るときの約束事を伝える ・しゃべらないで歩こう(ラポラポラが逃げちゃうから) ・ラポラポラを見つけたら、そっと教えてね 3コースに分かれて森を散策 ・ラポラポラはどこ? ・動物の足跡 ・動物の糞	読み手:あっちゃん 3グループに分かれて 座る 子どもたちの見やすい 位置に絵本を持つ	写真絵本3冊 (ラポラポラ) 新聞紙束 (座布団の代用)	妖精をみんなで探そうねという雰囲気のまま森を歩けるように配慮する
11:20	森に向かってカメラゲーム	静寂を楽しむように 声掛けする 今までのもりの保育園 を思い出すような言葉掛け		
11:30	ふるさと館(古民家)に到着	全員長靴を脱いで中に入る		
11:35	プログラム4 ふりかえり 写真絵本(ラポラポラ)をもう一度読む ねらい:森の余韻を楽しむ 一年間のまとめも含める ・森の中で遊んだ事をみんなで思い出し、 ・森に感謝する心を育てる あいさつ	読み手:ふっちゃん	写真絵本 (ラポラポラ)	
11:45	終了	今までのもりの保育園を思い出しながら森を再認識する 森に感謝の気持ちを言う		

第5回 もりの保育園

H21.2.11(木) 10:00~12:00

プログラム1 アイスブレイク 物語の世界へ

今日はルンルンの森へ出かけましょう。

《てぶくろ》

雪の降る森の中、こいぬと歩いていたおじいさんが手袋を片方落として行ってしまいます。

ねずみがかけて来て「ここで暮らすことにするわ」と手袋の中に入ります。

そしてやって来たのは、くま。
「わしも入れてくれ」
「とんでもない。まんいんです。」
のやりとりのあと
「ほんのはじっこになら・・・」
とくまも仲間に入れてもらい、
手袋は今にもはじけそうです。



次にやって来たかえるが「わたしも入れて」と言うと「どうぞ」と入れてくれました。うさぎ、きつね、おおかみ、いのしが次々とやって来て仲良く中に入ります。

手袋はもうぎゅうぎゅうづめです。



手袋が片方ないのに気付いたおじいさんが探しに戻るその先を、こいぬがかけて行くとむくむく動く手袋が・・・。「わん、わん、わん」とほえるとみんなはびっくり！手袋からはい出して森のあちこちへ逃げて行きました。

《てぶくろ》の世界に、みんな吸い込まれてしまいました。

プログラム2 森の探検

虫めがねでおもしろいものを見つけよう

これからみんなで虫めがねを持って、森にあるものを見に行きましょう。いつもと同じ森が、どう違って見えるかな。



「キノコがいっぱい！！」



「顔みたいに見えるよ」



「もう春を迎える準備をしてるんだね」



プログラム3 森の探検2

ラポラポラを探しに行こう

《ラポラポラ - 森にすむ妖精》

ラポラポラ アイヌのことばで、「はばたく」という意味。
森にはいると、ふと感じる、不思議な感覚。
それは、なんだろうと、ずっと思ってきた。
あるとき、北海道のとある場所で、「ラポラポラ」ということばを耳にした。
森を自由にとびまわる妖精だという。
森には本当に妖精がすんでいるのかもしれない。
動物たちを見ていると、ちゃんと、ラポラポラに気づいているようだ。 ……



「これからみんなで、
森へラポラポラを探しに行きましょう。
ラポラポラはすぐに逃げちゃうから、
おしゃべりしないで静かに歩こうね。
ラポラポラを見つけたら、
そーっと教えてね。」



「ラポラポラどこにいるかな～」



「シー！ラポラポラが逃げちゃうよ」



「これラポラポラの通ったあとかも！！」

プログラム4 ふりかえり

振り返ってみよう

みんなラポラポラには出会えたかな？
これまでもりの保育園の活動をとおして、何度も森の中に入ったね。
森にはいろんなものがたくさん隠れていたと思うけど、みんな覚えているかな？
これからも、もりの保育園で体験したことを忘れないでね！



千坂保育園のみんなが、きーさん、あっちゃん、ふっちゃんに一生懸命書いたお手紙をくれました。



きーさんと一緒にしたゲーム楽しかったよ！ あっちゃん、また一緒に遊ぼうね！



ふっちゃん、楽しいお話しありがとう！



1年間にわたり、自然の中で様々な体験をしました。もりの保育園プログラムを通して、里山あそびの楽しさが子どもたちはもちろん、まわりの大人にも十分伝わったのではないのでしょうか。回を重ねるごとに、参加している人たちみんなの笑顔がキラキラと輝いていったことが、とても印象的でした。

プログラムを終えて・・・

指導者の声(ふっちゃん)

これまでの活動の流れに沿った最終回としてふさわしい内容だったと思います。虫眼鏡で見るポイントを掴むと、次々と自分で発見していく子どもたちがたのしく見えました。森へ自分の気持ちを言葉で返すことは、単純だけれど、自然を大切にする気持ちへと繋がる素敵な行為だと思いました。遊歩道という線の部分だけでなく広い面の部分で妖精を探したり、声を出してもよしとするとまた違った活動ができるのではないかと思います。2月にも関わらず大変いいお天気で子どもたちには、はやる気持ちやこれまでの顔合わせで慣れがあったので、芝生広場で体を動かしてから、森に入り静かな活動に移ってもよかったかもしれません。

保育士の声・子どもたちの反応

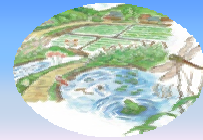
- ・子どもたちはプログラム最後の体験とあって楽しみと期待が高まり興奮気味だった。
- ・「ラポラポラはおらんと思うよ」と信じていない子どもたちだったが、森の中を歩いているうち雰囲気引き込まれ、「ラポラポラの通ったあとかも」、白い花を見つけて「かわいいね、ラポラポラかな？」とつぶやいていたのが印象的だった。
- ・いつも賑やかでおしゃべりの絶えない子どもたちが、森へ入る前の約束を守り、静かに行動している姿に驚いた。それだけ集中して森にのめりこんでいた証拠だと思う。
- ・森の中での絵本は神秘的で心地よく「ラポラポラ」の世界に入っていた。動の体験も楽しいが、静の活動の魅力と良さを体験を通して実感した。
- ・虫めがねを活用することで普段気付かないことが良く見え、発見の度合いと喜びが違ってくる。これからの保育にも虫めがねを持っているいろいろなところを探検してみたいと思った。

プログラムを実施してみよう！

以下のSTEP1～6の手順を参考に、実際にプログラムを実施してみましょう。
難しく考える必要はありません。子どもも大人も、参加者みんなが里山の自然とふれあい、楽しく体験できるプログラムを考えて実施してみましょう。身近な自然環境や子どもたちの中に、今まで気付かなかった様々なことを新たに発見することができるでしょう。

STEP1 場所を探そう

近くにプログラムを実施できるような場所がないか探してみましょう。
例：公園 空き地 広場 川 遊歩道 森林 田んぼ など



STEP2 季節ごとの花、昆虫などを調べよう

STEP1で見つけた場所で、あそびに利用できそうな、季節ごとの草花や昆虫、周りの様子など、楽しいものやステキなものを見つけましょう。



STEP3 プログラムのねらいを設定しよう

プログラムを実施することで、子どもたちや保護者、先生方など参加者に何を感じてもらいたいのか考えてみましょう。



STEP4 あそびを考えよう

周りの自然を利用したあそびを考えてみましょう。天候の影響を受けやすいあそびをする場合は、いくつかのパターンを準備しておきましょう。



春	夏	秋	冬
山菜採り タケノコ掘り	ザリガニ釣り ホタル探し	紅葉狩り ドングリ遊び	ソリあそび かまくら作り
お花摘み 綿毛飛ばし	クワガタ探し 笹舟あそび	お月見 落ち葉キャッチ	カンジキ歩き 冬芽さがし
ツクシ探し 花の蜜吸い	セミ捕り 夜の探検	クリ拾い 落ち葉に埋まる	雪合戦 雪だるま作り

STEP5 実際にやってみよう

周囲に危険がないか十分注意して、事故がないよう楽しみましょう。



STEP6 “ふりかえり”をしよう

設定したねらいを達成できたか、よかったところ、改善すべきところなどをスタッフ同士で話し合い、次回につなげましょう。



プログラム体験後の子どもたちの変化

きらきらで作ったお弁当をお散歩先でも作り、遊びに発展が見られるようになった。

子どもに絵を描かせると必ず、青い空、キラキラ光る太陽、風、雲を描くようになった。

子ども同士図鑑を見たり、外へでたときに「虫ってかくれんぼがすきなんやよ」といいながら虫を探すようになった。

今まで気付かなかったことや感じなかったこと、自然に対し、興味や関心が持てるようになった。自然を肌で感じる喜びが伝わってくる。

絵に木の枝や根っこを描くようになった。体験前までは木だけだった。自然に対する観察力がついてきた。

耳を澄まし水の音やキツツキの鳴き声を聴き、草や木のおいを嗅ぐなど、五感をフルに使うことで、子どもの感性を刺激し引出し、心と体の成長の礎につながっていくものと自然体験の重要性を改めて感じた。

表現会で「もりの保育園」の劇をしたが、終わった後も余韻覚めやらず子ども達で台詞を言い合うなど劇遊びを楽しんでいた。

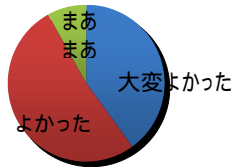
木の音を聞く体験から、何にでも耳にあて音探しをするようになった。

もりの保育園のプログラムを通して改めて自然のすばらしさ、良さ、大切さを学んだ。この学びを子ども達にもいろいろな遊びや体験で感じとれるように、これからの保育に生かしていかなければならないと思った。

手作り絵本を作ったところ「もりの保育園」を描いている子が何人かいた。内容も自分で考えていた。自然体験からイメージ力、想像力も自然とついてきていることを実感した。

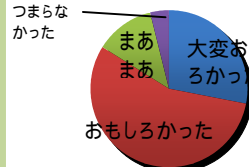
話を聴く力がついたのか、問いかけに対する返事が早くなり、自分の思いや考えを言葉にして伝えることがより上手になりました。

1. もりの保育園に参加して



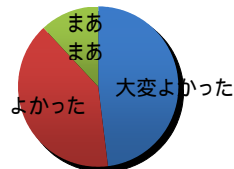
大変よかった	40%
よかった	52%
まあまあ	8%
悪かった	0%

2. 森の中での“ブンブンの森”のあそびは



大変おもしろかった	28%
おもしろかった	56%
まあまあ	12%
つまらなかった	4%

3. 自然の中での活動について(場所)



大変よかった	48%
よかった	40%
まあまあ	12%
悪かった	0%

意見欄

子どもの感想(保護者からの聞き取り)

- ・ブンブンじゃんけんがお気に入り家でよくやっている
- ・ヤゴとザリガニゲームが楽しかった
- ・15匹も見つけたよと喜んでた
- ・ものを探すのは難しすぎた
- ・カモフラージュは見つからないと楽しめない
- ・全部おもしろかった
- ・虫のかくれんぼがおもしろかった
- ・この木なんの木 家でもよく歌っている
- ・カメラゲームでは「キラキラしてきれいだった」

他、楽しかった、おもしろかったの意見が多い

保護者の感想

- ・最初は暑くて面倒・・・と思いながら参加したが、虫のかくれんぼなど子どもと一緒に探し、見つけたときは自分も子供に戻った感じで楽しめた。
- ・虫のかくれんぼのとき急遽小学生の場所に変わり、「虫いなかったね」と子どもが言ったので少し残念だった。
- ・虫のかくれんぼは親子ともども楽しめた。
- ・暑くて大変だったが子どもが体をいっぱい動かすことがあまりなくなってきているのでよかった。
- ・森の中は結構涼しくて気持ちよく、子どもの生き生きした様子を見ていて、もっとこういう自然の中で遊ばせてやりたいと思った。
- ・ハチがいたので怖かった。かぶれる草木もあるようなのでもう行きたくない。
- ・カメラゲームでは一瞬だったけど安心して安らげた。
- ・自然の中での体験はすばらしい。大変よかった。
- ・宝探しゲームみたいでわくわくした。
- ・子どもが楽しそうに遊んでいてよかった。
- ・暑かった。
- ・子どもが元気に遊ぶ姿を見てよかった。
- ・とても楽しく参加できた。
- ・身近なものでお金をかけずに楽しめてよかった。
- ・子どもの頃山で遊んだことを思い出して楽しかった。
- ・徐々に自然とふれあえてよかった。
- ・童心に帰った気分よかった。

モデルプログラム実施保育園保育士の皆様からのいただいた感想

- ・手作りの探検バックに拾った木の実などを大切そうに入れていた姿が印象的だった。それだけ自然物に対して大切に扱うやさしさや思いやりが育っている証拠かな?とも感じた。
- ・ゲームを通して木の実と動物のかかわりがあり、つながっているということを分かりやすく子ども達に伝わった。だからこそ、「どんぐりをどこに埋めよう?」「土のやわらかいところ?」「おひさまがあたるところ?」と真剣に考えている会話や姿がみられたと思う。
- ・気持ちのよい日和に恵まれ大自然の中でのびのびと参加でき、いきいきした表情の子ども達だった。
- ・この体験から自然に対するやさしさやすばらしさを感じ取ったのではないだろうか?
- ・母親でもなく園の保育士でもない見知らぬ人とペアになってのゲームなどの参加は、最初、よそいき口調の子ども達だったが相手が子どもに慣れた保育士とあって子どもに対する言葉かけのうまさや興味の引き出し方、ポジティブな行動に影響され、はつらつとした動きが見られた。
- ・他園の保育士に戸惑いつつ真剣にプログラムをこなしていた子ども達だったが、心地よい緊張感も時には必要と思った。
- ・寸劇の話も分かりやすく、大人も子どもも真剣に見入っていた。どんぐりを隠したり、見つけたりのゲームを自然の中で体験することで、寸劇の話がより理解でき、ずっと心に残るのではないかと思う。

第3回もりの保育園 プログラム体験会

体験プログラムに参加された皆様からいただいた意見・感想

- ・お話を通して、「なるほど」と感じることができました。また、自然の中で聞くからこそ楽しめました。
- ・自然に触れることをどんどん取り入れていきたい。
- ・今回やったようなゲーム形式でする事で、さらに子どもたちの興味が引くことができ、自然に知識が増えていきそうに感じた。
- ・子どもたちに今回のような経験が出来る機会がどんどん増えていけばと思いました。
- ・来年、当園でも1年を通して夕日寺健民自然園を教場にして自然を体験する「森の幼稚園」プロジェクトを計画しようと思っていた矢先でしたので、ちょうどいい研修でした。
- ・春、夏、秋、冬、雨天時などのプログラムの提供やインストラクターなどの派遣をお願いしたく思う。また、この1年間の記録誌を幼稚園の方にも配布してほしいと思います。
- ・どんぐりでもこんなにいろいろな遊び方ができるのだと、とても勉強になりました。また、日頃見つけられない木の実や葉っぱを見つめることができ、私自身とてもわくわくした。
- ・こんなに自然が多いところはなかなかないので、是非、子ども達が自然体験できる機会を持ってたらと思います。
- ・こういう場で過ごす、遊ぶ事が大事だと思った。機会があればこの時期に子どもたちを連れてのびのび遊ばせたい。
- ・山や田んぼがまわりにいっぱいあるので散歩はしていたが、森の中でゲームをしながらいろいろな木の実を探したりすることは楽しみがあっていいなと思いました。
- ・最近、クマが出没するので行かないようにしていたが、また機会をつくって行きたい。
- ・これからこんな体験ができる取り組みが増えれば、次世代にも自然が残せる社会になって行くような気がします。
- ・子どもたちがのびのびと輝いた目で木や木の実・葉・虫の鳴き声などに触れているのを見て、自分の園の子どもたちにも体験させてあげたいなと思いました。
- ・テーマが決まっていたことによって、子どもたちに伝えたいこともしっかりしていて、実りのある自然体験になりました。
- ・どんぐりを楽しみながらまた自然に戻っていくことで、自然の命のつながりを身近に感じる事が出来ました。
- ・保育園でフィールドビンゴカードを使ってネイチャーゲームを取り入れていたので、今日のやり方は参考になりました。
- ・子どもたちと一緒に目線になり、日頃味わうことが出来ない気持ちを沢山味わう事ができました。
- ・子どもと一緒に、子どもが意欲的に活動できることを目的として、現代には非常にふさわしい内容であると思います。
- ・子ども達一人ひとりのつぶやき、発見、確認、共感を大切にすることの大切さを再確認することができ嬉しく思います。
- ・今日学んだことを自分の保育園に戻って少しでも生かせたら良いと思います。
- ・子どもの感動に寄り添うこと、否定しないことの大切さを改めて痛感しました。
- ・子どもが一番親しまれていた「どんぐり」を生育も伝えながらの展開に、驚きに近い感動でした。遊びの中で親しんでいく今日のやり方は参考になりました。
- ・どんぐり探しは夢中で探したり、子ども達の隠したり発見する早さに驚いたり、大盛りあがりでした。
- ・「大きな輪」や「どんぐりじゃんけん」など保育に参考になるものばかりでとても勉強になりました。
- ・工夫したい点では、「ごちそうはどこだ」のゲームで、「どんぐり」を見つけれられたり、見つからないままの子もいたので、ほとんどの子が楽しさを感じられるように、他のどんぐりもこっそり置いておく等の方法もあるのではないかなと思いました。
- ・ただ、自然に触れるだけでなく、山と動物の関係が分かりやすくゲームになっていたのも、保育者自身もすごく楽しめました。
- ・実際、自分自身が体験し、とても楽しかったので、子ども達にも伝えていきたいと思いました。
- ・木や草花、木の実などの知識を実施する上で、もっと学ばなければいけないと思いました。その為にも、このような研修や利用できる環境を増やしていただけたら嬉しいです。
- ・今までどんぐり拾いをしてそのあと、それを使った遊びまでは楽しんでいましたが、森に返すことや動物との関係まで深く捉えていなかったで、子どもたちに伝えるべき大切なことだと感じました。
- ・自然に関わる入り口として、見るポイントをせめて、目標を決めて・・・そのうちよそ見をする程の経験をさせていきたいと思う。そして何でもありで、かた守るべきことの大切さを身近にする に考えていきたいし、経験させていきたい。守る努力に感謝します。
- ・動物と自然との関わりということで、話からスタートしたのがよかった。
- ・園に帰ってどんぐりを植えてみようと思いました。
- ・子どもたちがいたので生の感想、表情、仕草が見られた。
- ・劇やどんぐりの絵本がよかったです。
- ・答え合わせがないのも良かった。
- ・子どもたちとの自然体験、童心に返ったようでとても楽しかったです。
- ・インストラクターの先生が近くにいたら嬉しいと思いました。
- ・劇もわかりやすく、自然について考えられる時間になった。
- ・楽しく参加することができました。
- ・どんぐりを隠したり見つけたりするのも楽しかった。
- ・どんぐりをとりに行くことがあるが、埋めることもよかった。
- ・リスのゲームはバージョンを変えながらやってみたい。
- ・里山は子どもたちにとって宝物だなと思いました。
- ・またこのような機会があれば参加したい。

- ・子どもの頃の感覚がよみがえってきた。におい、感触、風景など
- ・空気が澄み、木々がキラキラ光って見えて秋の自然のすばらしさを感じるとともに、自然の中で遊ぶというのはこういうことなのだとなんと再認識できた。
- ・楽しい内容で充実した時間を送れた。
- ・絵を描かせると木、空、雲、太陽など自然がいっぱいで、木にいたっては根っこや枝まで細かく表現するようになった。実際に五感をめいっぱい使って体験したからこそだと感じている。
- ・子ども達だけでなく自分も夢中になれる内容で展開が工夫されていておもしろく興味がわいた。
- ・ごちそうはどこかでは楽しみと不安が入り混じり、見つかるまでの子どものドキドキ感が伝わってきた。普段の生活や遊びとは違うドキドキ感だったのではないかと感じた。
- ・たくさんの幼保関係の方の参加があり一緒に学ぶ機会ができたことを感謝しています。
- ・個人情報、守秘義務などの関係もあると思うが、参加者の名簿や園名など知らせていただけるとよかった。自然保育に関心のある園の情報など知ることで参考にしたかった。